



広島城北高等学校サッカー部OB会
広島市東区戸坂城山町1-3 広島城北学園内 〒732-0015
電話 082-229-0111 FAX 082-220-2366



博多祇園山笠 (OB会報)

19回生 吉川 英司

「博多祇園山笠・追い山」。この行事が終わればこの博多の街は本格的な夏の到来を迎える。私も、福岡赴任し、はや四年目を迎える。私共、福岡赴任し、はや四年目を迎える。私共、福岡赴任し、はや四年目を迎える。私共、福岡赴任し、はや四年目を迎える。



何よりも感じたことは、参加者の年齢層でした。老若男女・まだ一歳位と思われる赤ちゃんを担ぐお父さん。ほーっ。この年から参加し楽しさを自然と覚えそのままする。その後、全国どこへ出たとしてもこの時期に必ず、「追い山」に参加するために帰ってくる。



PS・OB会費のご協力にしましてはいつもご迷惑おかけしておりますが、できる範囲で構いませんのでご協力よろしくお願いいたします。

三週間の実習の中で、結局私は一度だけしか最上段グラウンドへ上がることはできなかったのですが、学校の校舎の中でならたくさん話をすることが出来ました。校舎の中で彼らは明るく元気で、日々を楽しそうに過ごす「高校生」の姿でした。久々にそんな若さのエネルギーを感じ、まるで自分も高校生の頃に戻ったかのようでした。



ただその印象も、最上段グラウンドに上がればまた違ったものになりました。明るく元気で、楽しそうなのは変わらないのですが、それだけではなく、最上段の彼らの姿には、同じ目標を

三年間という限られた期間の中で、違う性格の者同士が（サッカーが好きというところでは似ているけれど）、同じ目標に向かって努力する。もしかしたらたとえ同じクラスになっても話すことはなかったかもしれない奴だっている。そんな中で、馴れ合いとは違う自分の意見を言い合う。これはやはりただの友達とは違うものであり、城北サッカー部にはその舞台が用意されていたのだなと、いまさらになってかみ締めています。

る。そして、旧交を温める。そしてそこでふと思いました。これは、わが城北サッカー部の「最上段グラウンド」に「初蹴り」の感じにしている。そして、旧交を温める。そしてそこでふと思いました。これは、わが城北サッカー部の「最上段グラウンド」に「初蹴り」の感じにしている。

広島城北高校サッカー部39回生、橋本周一と申します。今年六月一日より教育実習生として再び母校におじゃまさせてもらうことになり、この機会にOB会報にその経験について寄稿したいかというお話を宮本先生からいただいたので、恐縮ながら引き受けてもらおうと思います。

その違いを見たとき、私は自分がまだ現役だった頃に宮本先生がよく言っておられた言葉を思い出しました。クラスの友達と、部活の仲間とは違う。いま客観的に見て、その意味がさらによくわかってきた気がします。



いまを思い出す...仲間

39回生 橋本周一

